

解答

一

- 問一 A ふんいき B おだ（やかな）
問二 ウ
問三 将棋部員のぼくらを水泳部の臨時部員として連れ出すため。
問四 イ
問五 ピアスをつけること。
問六 自分がたったひとりの正規の水泳部員（だという） 自覚（がなかった。）
問七 エ
問八 もともと水 へ あったため
問九 水泳部に行かなくてもいいことは嬉しいが、大切に育てた姫に裏切られるウガジンの様子はかわいそうであるこぶ気持ちになれない。
問十 ウ

二

- 問一 A すで B ねいろ
問二 ウ
問三 昆虫は哺乳類に比べて一五〇倍も種類数が多く、個体の数も人類の一億倍も多いから。
問四 エ
問五 ア
問六 トンボは前へ進むシンボルのな存在だった（から）。
問七 殺してしまった虫の魂をなくさめる行事。
問八 イ
問九 虫を愛する
問十 ウ

三

- 問一 イ
問二 ウ
問三 ウ
問四 ① ウ ② ウ

四

- ① 著しい ② 検討 ③ 故障 ④ 実績 ⑤ 発揮
⑥ 裁つ ⑦ 喜ぶ ⑧ 操る ⑨ 群がる ⑩ 運河

解説

一

- 問五 ウガジンが怒りの形相で、「もう一度訊くぞ。おまえは、どういうつもりでそういうことをしてるんだ」と言い、姫が「分かりましたよ。取ればいいんでしょ、取れば」と、ピアスをはずそうとした状況から、――線部③は「ピアスをつけること。」を指していることがわかります。
本文の後半にある水泳部の練習に行かなくてすむことになった場面に着目すると、ウガジンをかわいそうに思う僕の姿が描かれています。「うれしいはずなのに、悲しい気持ちで胸の奥で揺れた。」や「選手として大切に育ててきた姫に、あっさりと裏切られるなんて同情せずにはいられない。」という内容から、「水泳部の活動に取り組む意欲が高まった。」という記述を含む選択肢ウが当てはまらないことがわかります。

二

問七

——線部④の前後で、秋になると農村では、農作業によって殺してしまった虫の魂を供養し、害虫の魂をなぐさめたことを説明しているので、この部分をわかりやすくまとめます。

問十

本文の終わりから三番目の段落にある、アメリカの大学の学生たちにとって、虫は愛すべきものではなく、退治するものらしいという内容から選択肢ウが選べます。